

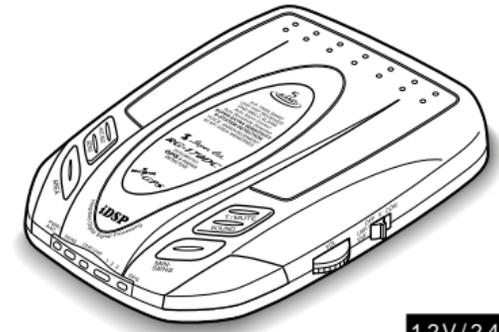
GPSアンテナ一体型レーダー探知機

RG-170DC

取扱説明書

目次

はじめに	安全上のご注意	2
	主な特長	6
	ご使用にあたって	8
	各部の名称と働き	8
	電源について	12
取り付けかた	フロントガラスに取り付ける	14
	ダッシュボードに取り付ける	16
使いかた	レーダー編	
	音量/警報音/受信感度を設定する	19
	便利な機能について	22
	レーダー警報機能について	23
	iDSPについて	24
	トリプル識別受信機能の使いかた	28
	GPS編	
	GPS測位機能について	32
	GPS測位機能の使いかた	33
	NシステムGPS告知	36
	マイ・エリア警告の使いかた	38
	ミニマムセンス・モードの使いかた	40
	AACシステム/ASS機能について	42
その他	取締りレーダー波を受信しにくい場合	45
	取締りのミニ知識	46
	故障かな?と思ったら	48
	仕様	50
	アフターサービスについて	51
	無料修理規定	55
	保証書	裏表紙



12V/24V車対応

このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機は、スピード取締り機の前もってお知らせする受信機です。

GPS測位は、特に初めてのときなど、地理的状况により20分以上かかる場合があります。障害物や遮へい物のない視界の良い場所に移動し、車を停車して行ってください。

⚠ 注意

この説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

保証書 (持込修理)

本書は、本書記載内容(裏面記載)で、無料修理を行うことを、お約束するものです。保証期間中に、正常なご使用状態で、故障が発生した場合には、本書をご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

品番		RG-170DC	
S/No.			
お買い上げ年月日	保	対象部分	器本体(消耗部品は除く)
日	月	日	年
お名前	様		
住所			
販売店	店名・住所	上欄に記入または捺印の無い場合は、必ず販売店様発行の領収書など、お買い上げの年月日、店名等を証明するものを、お貼りください。	

無効

ユピテル工業株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33

6SS0675

安全上のご注意

つづく

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告：この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意：この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示について

- ⚠** この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
- ⊘** この記号は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗** この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

-  水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない...火災や感電、故障の原因となります。
-  穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない...感電や故障の原因となります。

⚠ 警告

-  電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない...感電やショートによる発火の原因となります。
-  シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふく...接触不良を起こして火災の原因となります。
-  シガーライターソケットは単独で使う...タコ足配線や分岐して接続すると、異常加熱や発火の原因となります。
-  シガープラグは確実に差し込む...接触不良を起こして火災の原因となります。
-  表示された電源電圧以外では使用しない...火災や感電、故障の原因となります。また、ソケットの極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。
-  運転中は絶対に操作しない...わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。
-  穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない...感電や故障の原因となります。
-  機器本体および付属品を改造しない...火災や感電、故障の原因となります。

はじめに

はじめに

⚠ 警告

- 

取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける...誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
- 

助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない...万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。
- 

煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない...発火の恐れがあります。すぐにシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。
- 

万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにシガープラグを抜く...そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- 

警報したときに慌ててブレーキをかけたたりしない...走行中に急ブレーキをかけたたりすると大変危険です。
- 

バッテリーに直接接続しない...火災や感電、故障の原因となります。シガープラグコードを使用せずに電源をとる場合は、別売のOP-4をご使用ください。
- 

サービスマン以外の方は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない...感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

⚠ 注意

- 

本機は日本国内仕様です。海外ではご使用にならないでください。
- 

取り付けは確実にを行う...落ちたりして、ケガの原因となります。
- 

車から離れるときは、電源が切れていることを確認する...シガーライターソケットに常時、電源が供給される車種があります。長時間ご使用にならないときはシガープラグを抜いてください。
- 

シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らない...コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずシガープラグを持って抜いてください。
- 

お手入れの際は、シガープラグを抜く...感電の原因となります。

本機を使用中のスピード違反に関しては、一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心がけください。

主な特長

1 GPS測位機能

GPS (Global Positioning System) とは、衛星軌道上の24個の人工衛星から発信される電波により、緯度・経度を測定するシステムです。カーナビでお馴染みのこのシステムを利用して、取締りレーダー波を放射しないループコイル式や光電管式のオービスそしてLHシステムも、ボイスで警告します。

① GPSボイス警告 [特許出願中]

『ボーン 右(左)方向1km(500m)先に高速道(一般道)式オービスがあります』とボイスで警告。

・オービス識別ボイス...オービスまでの距離約1kmと約500m手前の2カ所で、ループコイル式・LHシステム・光電管式・Hシステム・レーダー式とオービスの種類を識別して、ボイスで警告。

・方向識別ボイス...進行方向に設置されたオービスのみを警報し、反対方向のオービスは警報しません。さらに、進行方向に対して、オービスが右手または左手方向に約25°以上のときは、その方向もお知らせします。

・高速/一般道識別ボイス...オービスが高速道路上に設置されているか、一般道路上のものかを識別してお知らせします。

② トンネル出口警告 [特許出願中]

『ボーン トンネルの出口付近に高速道(一般道)式オービスがあります』とGPSの電波を受信できないトンネルの出口付近のオービスを、入口の手前でボイス警告。

③ オービス・ポイント直前告知

『ボーン』とオービス・ポイントの通過直前に音でお知らせ。

④ NシステムGPS告知

『ボーン 右(左)方向すぐ先に高速道(一般道)Nシステムがあります』とGPSによる自車位置測定機能によりボイスでお知らせ。

⑤ マイ・エリア警告

『ボーン 右(左)方向1km(500m)先にセットしたエリアがあります』と移動オービスの出没位置など、登録したいエリアを30カ所メモリーでき、近づくとボイスで警告。

⑥ MSC /ミニマムセンス制御

自動ドアなど、取締り機が設置されていないにもかかわらず、レーダー警報が鳴るエリアを30カ所メモリーでき、登録ポイントから半径約300mエリア内でのレーダーの警報レベルを最低に制御。
Minimum Sensitivity Controlの略です。

⑦ AAC /不要警報カット [特許 第2064681号]

GPSによる速度検出機能により、時速40km以下で走行中または停車中の不要な警報をカット。
Auto Alarm Control の略です。

⑧ ASS /最適感度選択 [特許 第3051676号]

GPSによる速度検出機能により、走行速度が時速40km以上の場合はスーパー感度、60km以上はエクストラ感度、80km以上はスーパーエクストラ感度と最適感度を自動選択。
Auto Sensitivity Selectionの略です。

⑨ GPS色別警報

GPS警報時はアラームランプが青く点滅、レーダー警報時は赤く点滅。

⑩ オービス&Nデータ更新対応

ご希望により、最新のオービスおよびNシステムのデータに更新可能。(送料・税別 ¥5,000 データベースは半年に1回程度更新されます)

2 カーロケ帯・取締無線&デジタル無線 トリプル識別受信機能

① 音声受信...407.7MHz帯のカーロケ・データ伝送の受信音で、近くにカーロケーターシステム搭載車がいる可能性が高いことをお知らせ！また、350.1MHz取締り現場無線の交信内容を丸ごと傍受。さらに、159・160MHz帯のデジタル無線の受信音で、交信車が近くにいる可能性が高いことをお知らせ！

② ボイスガイド...407.7MHz帯の電波を受信すると、『ピッピッピッ カーロケ無線をキャッチしましたご注意ください』と、女性のボイスでお知らせ。また、350.1MHzの電波を受信すると、『ピッピッピッ ピッピッピッ 受信しました ご注意ください』と、女性のボイスでお知らせ。さらに、159・160MHz帯の電波を受信すると、『ピッピッピッ デジタル無線をキャッチしました ご注意ください』と、女性のボイスでお知らせ。

3 S-EXTRA/スーパーエクストラ感度

衛星技術に応用した探知距離2倍(当社比)の超最高感度。

Wスーパーヘテロダイン...スウィープオシレーター式超高精度受信方式 [特許 第1720227号] フリップチップインアンテナ [特許 第3229564号/USP6049313] X/Kツインバンド 後方受信

4 iDSP

統合的デジタル信号処理技術(iデジタル)により、超高精度識別を実現。

integrated Digital Signal Processing Technologyの略です。

① ボイス識別

・新Hシステム識別...『Hシステムです』と、女性のボイスでお知らせ。 [特許 第3326363号]
・ステルス識別...『ステルスです』と、女性のボイスでお知らせ。

② GPS排除...カーナビのモレ電波を識別し、誤警報を排除。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正。 [特許 第3044004号・第3160272号]

5 レーダーアラーム機能

オケメロ&ボイスアラーム...オケメロ『運命』に続けて『ご注意ください』とボイスアラーム。 Wアラーム方式 接近テンポアップシステム ミュートボタン

6 自動制御機能

オートディマー オートクワイアット

使用上のご注意

周辺の環境によっては、GPSの測位に誤差が生じることがあります。走行環境や測定条件などにより、取締りレーダー波の探知距離が変わることがあります。一部の車種に採用されている金属コーティングの断熱ガラスのなかには、電波の透過率が低いため衛星からの電波を受信しにくく、GPS測位ができない場合や、取締りレーダー波の探知距離が短くなる場合があります。

レーダー操作部

DCジャック[DC12/24V] (12V/24V車対応)
付属のシガープラグコードを接続します。(12ページ)

AAC/ASSボタン[AAC/ASS]
AACシステムの設定/解除ができます。AACシステムをONに設定すると、自動的にASS機能が働きます。(43ページ)

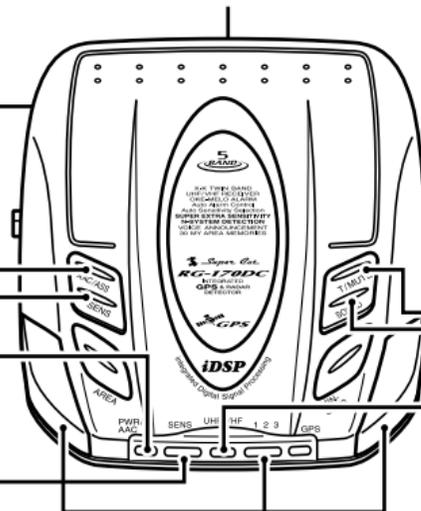
受信感度セレクトボタン[SENS]
AACシステムを解除しているときは、走行環境や条件に合わせて受信感度が選べます。(21ページ)

パイロットランプ[PWR/AAC]
電源が入ると点滅します。また、警報の状態をランプの色で表示します。(19、43、44ページ)

感度ランプ [SENS]
受信感度をランプの色で表示します。(21、44ページ)

アラームランプ
取締りレーダー波を受信すると赤く点滅し、GPSの電波をサーチ中またはGPSによる警報中は青く点滅します。(23、42ページ)

レーダー波アンテナ(前面)
取締りレーダー波を受信します。



UHF/VHFスイッチ[UHF/VHF]
トリプル識別受信機能の設定/解除および動作モードを選べます。(29ページ)

音量ツマミ[VOL]
警報音の音量調節ができます。(19ページ)

テスト&ミュートボタン[T/MUTE]
警報音の確認やミュート機能を使うときに押します。(19、20、22ページ)

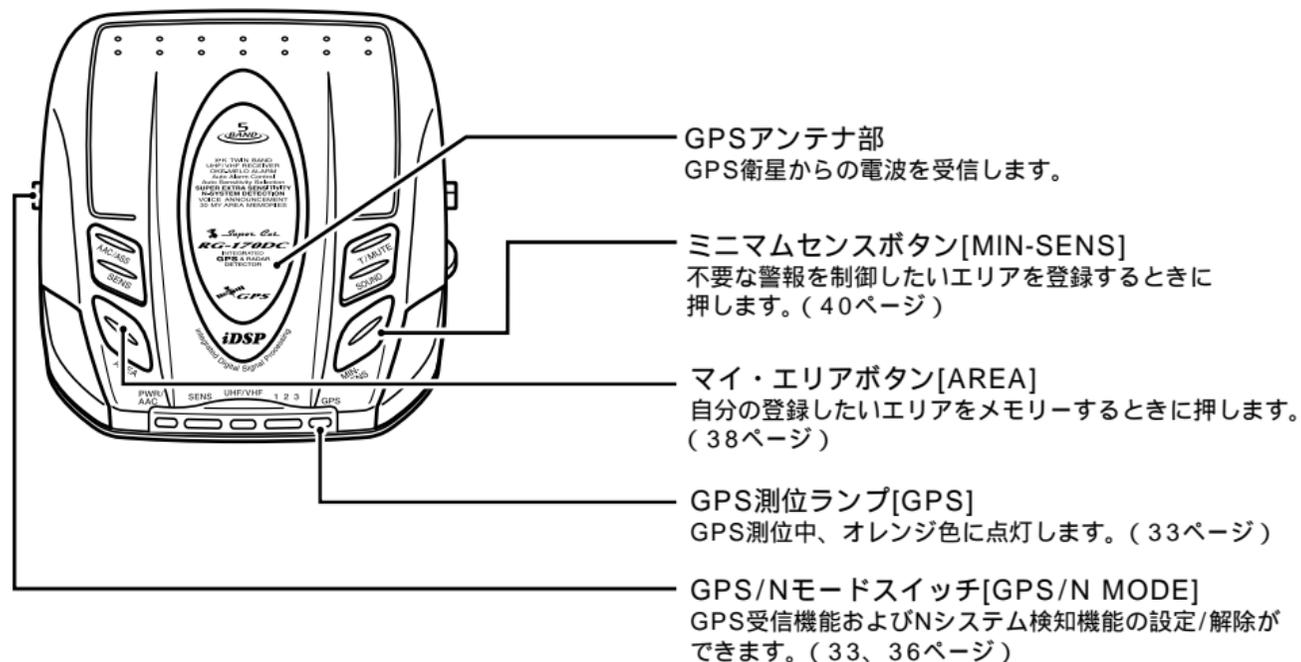
警報音セレクトボタン[SOUND]
警報音が選べます。(20ページ)

UHF/VHFランプ[UHF/VHF]
350.1MHz、407.7MHz帯および159・160MHz帯の電波を受信したとき、緑色に点滅します。(30、31ページ)

シグナルメーター[1~3]
受信している取締りレーダー波の強さに応じて、点灯数が左から右へ増えていき、右端に達すると、すべてが点滅します。(23ページ)

各部の名称と働き

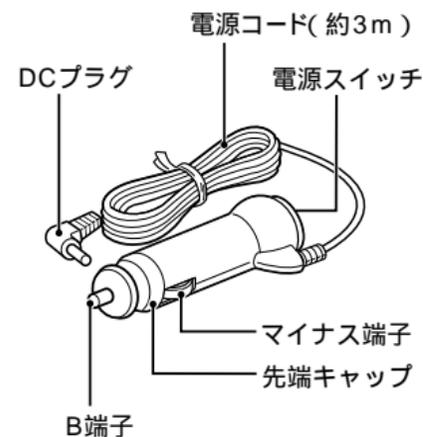
GPS操作部



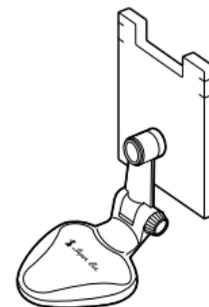
付属品

ご使用前に付属品をお確かめください。

電源スイッチ付シガープラグコード(1)



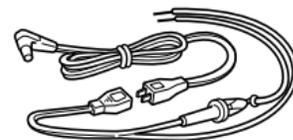
フロントガラス/ダッシュボード
兼用ブラケット(1)



吸着盤(2)
マジックテープ(1)
コードクリップセット(1)
取扱説明書・保証書(1)
GPSメモリーバックアップ用の電池
は内蔵されています。

別売品のお知らせ

電源直結コードOP-4(約4m)
1,500円(税別)



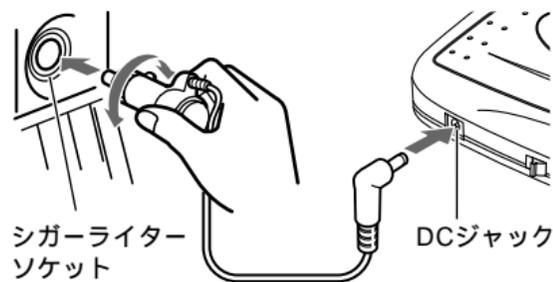
シガーライターソケットを使わず
に、アクセサリ系端子から直接電
源をとることができます。

はじめに

電源について

1 付属のシガープラグコードを、DCジャックと車のシガーライターソケットに差し込む

シガープラグは、2～3回左右にひねりながら差し込みます。



⚠ 警告

-  めれた手でシガープラグを抜き差ししないでください。火災や感電、故障の原因となります。
-  シガープラグコードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しないでください。また、傷んだシガープラグコードを使用しないでください。感電やショートによる発火の原因となります。
-  シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふいて確実に差し込んでください。ホコリが付いていたり、不完全な接続をすると、接触不良を起こして火災の原因となります。
-  シガーライターソケットは単独で使用してください。タコ足や分岐して接続すると異常過熱や発火の原因となります。
-  表示された電源電圧以外では使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
-  万一キャビネットを破損した場合は、すぐにシガープラグを抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。

⚠ 注意

-  シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷がついて感電やショートによる発火の原因となります。
-  お手入れの際には、シガープラグを抜いてください。感電の原因となります。

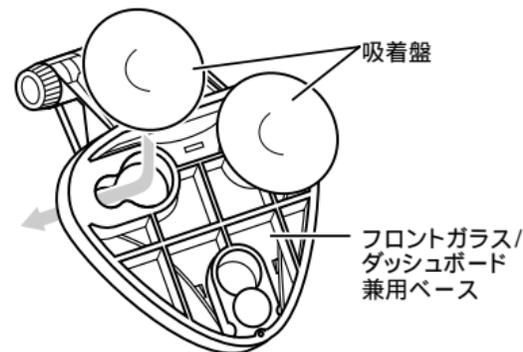
- シガープラグコードは、必ず付属のものをご使用ください。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。
- 一部の車種においては、シガープラグの形状が合わないことがあります。その場合は、別売のOP-4を使用してください。(11ページ参照)
- 本機をバッテリーなどと直接接続すると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

フロントガラスに取り付ける

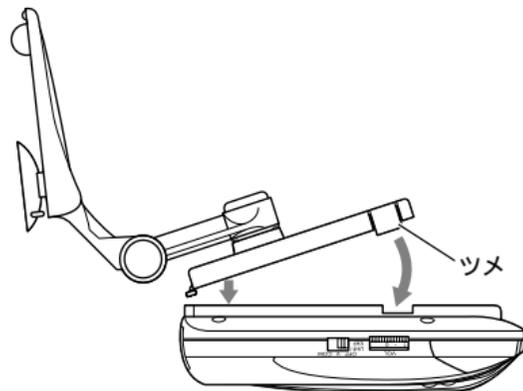
GPS衛星からの電波を受信しやすくするため、障害物や遮へい物のない視界のよい場所に取り付けてください。



- 1** フロントガラスダッシュボード兼用ブラケットに、吸着盤を取り付ける

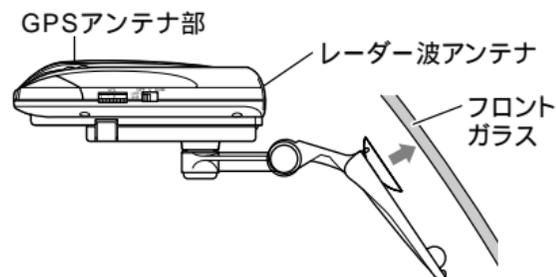


- 2** ブラケットを本体に取り付ける



ブラケットを取りはずすときは、両側のツメを押しながら、引き上げて外します。

- 3** フロントガラス下部に貼り付ける
吸着盤に水などをつけて、フロントガラスの中央下部のGPSの電波を受信しやすい場所に貼り付けます。

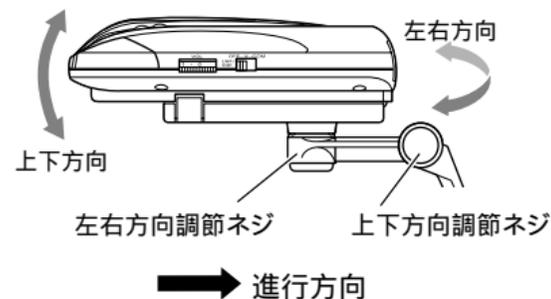


GPSアンテナ部の上やレーダー波アンテナの前に他の機器のアンテナや、金属などの障害物がこないように取り付けます。

⚠ 警告

- ❗ 運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能(ブレーキ、ハンドルなど)の妨げにならない場所に取り付けてください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

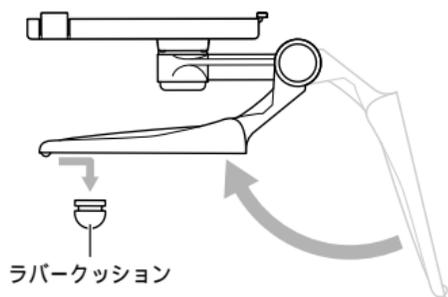
- 4** 道路に対して、本体を水平にする
アンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調整します。



⚠ 注意

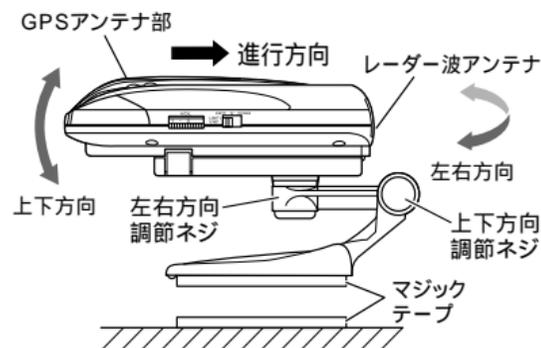
- ❗ 取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。
- ❗ 上下方向の角度を調節するときは、必ず上下方向調節ネジをゆるめてから行ってください。破損の原因となります。

1 ブラケットからラバークッション をはずす



- GPSアンテナ部の上やレーダー波アンテナの前に他の機器のアンテナや、金属などの障害物がこないような場所に取り付けてください。
- あらかじめ、貼る場所のチリや汚れ、脂分をよく落としたあと、慎重に行ってください。貼り直しは、テープの接着力を弱めます。
- 使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。

2 付属のマジックテープで貼り付け、本体を道路に対して水平に、またアンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調整する



- GPSの電波を受信しやすい場所に取り付けてください。

警告

- ! エアバックの上に取り付けしないでください。万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

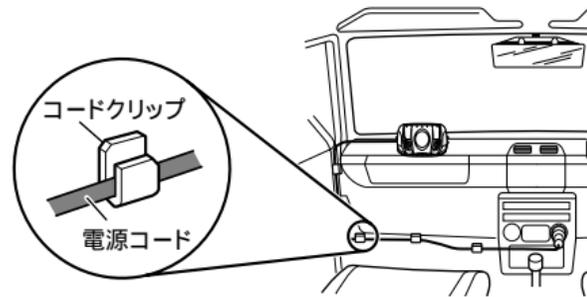
注意

- ! 取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。
- ! 上下方向の角度を調節するときは、必ず上下方向調節ネジをゆるめてから行ってください。破損の原因となります。

ダッシュボードに取り付ける

コードクリップの使いかた

付属のコードクリップセットで、シガープラグコードがきれいに配線できます。コードクリップを両面テープで貼り付けます。



- 布などは避け、なるべく硬く、なめらかな場所を選び、接着面に触れないように貼り付けます。
- 貼る場所のチリや汚れをよく落としたあと、慎重に行ってください。

警告

- ⊘ 助手席エアバックの妨げとなる場所に配線しないでください。シガープラグコードが妨げとなり、エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。
- ! 運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能(ブレーキ、ハンドルなど)の妨げにならない場所に取り付け・配線を行ってください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

注意

- ⊘ 取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。

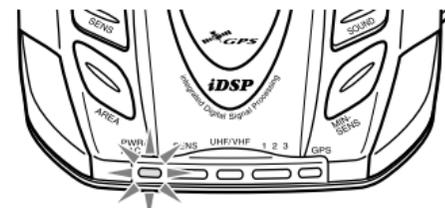
音量/警報音/受信感度を設定する

つづく

設定は、必ず停車中にパーキングブレーキを確実にかけて行ってください。

1 電源を入れる

車のエンジンを始動し、シガープラグの電源スイッチを押します。

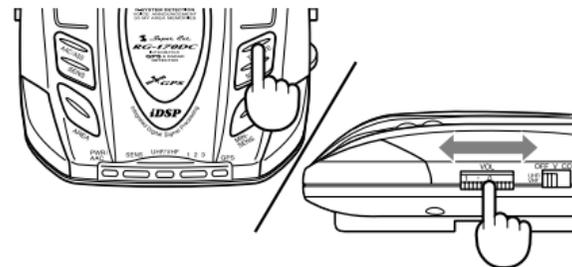


ターン・オン・ビープ(㊦)ピロップピロツ...)が鳴り、パイロットランプが点滅します。

- トリプル識別受信機能を設定しているときは、『ピロップピロツ』のあとに『ピピピピツ』と鳴ります。(29ページ参照)

2 音量を調節する

テスト&ミュートボタンを押しながら、音量ツマミを回します。



テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が働き、警報音が止まります。(22ページ参照)

音量/警報音/受信感度を設定する

テスト&ミュートボタンを押している間はテストモードとなり、警報音(電子音またはオケメロ)を確認することができます。

一旦テスト&ミュートボタンを放し、1秒以内に再度押すと、次の手順で警報音や音声の確認ができます。

1秒以内にテスト&ミュートボタンを押す

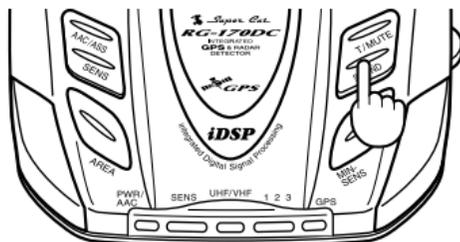
『ステルスです』『Hシステムです』...

1秒以内にテスト&ミュートボタンを押す

警報音(電子音またはオケメロ&ボイス)

3 警報音を選ぶ

警報音セレクトボタンで切り換えます。



押すたびに切り換わります。

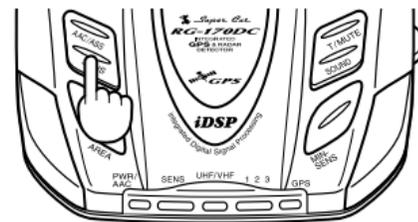
電子音 ↔ オケメロ&ボイス

選択した警報音は、テスト&ミュートボタンを押すと確認できます。

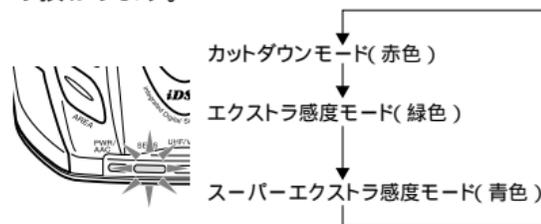
「オケメロ&ボイス」に設定すると、「運命」に続けて『ご注意ください』とボイスでアラームします。

4 受信感度を選ぶ

AACシステムがOFF(解除)のときに、受信感度セレクトボタンを押して切り換えます。



感度ランプの点滅色は、ボタンを押すたびに切り換わります。



AACシステムがON(設定)のときに、受信感度セレクトボタンを押すと、スーパーエクストラ感度モードとなります。再度押すと、ASSモードに戻ります。

受信感度について

受信感度が高いほど、遠くの電波を受信できますが、取締りレーダー波と同じほかの電波も受信してしまいます。走行環境や条件に合わせて、受信感度をお選びください。また、受信感度が高いほど、新Hシステムなどの受信には有効となります。

受信感度の切り換え(マニュアル)

	受信感度	走行環境や条件
高い	スーパーエクストラ感度モード	高速道路
	エクストラ感度モード	郊外や高速道路
低い	カットダウンモード	市街地

便利な機能について

オートクワイアット/ディマー機能

レーダー波の受信が約30秒以上続くと、自動的に音量が小さくなり、アラームランプなどのランプ類も暗くなります。

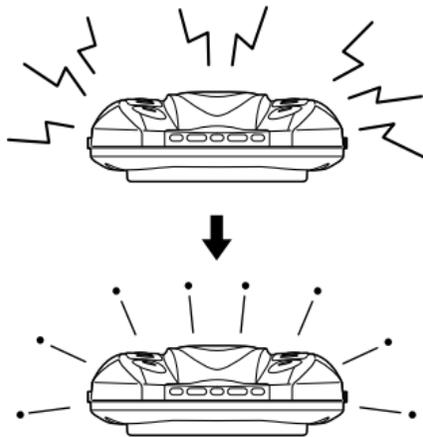
後方受信

iDSPによる超高精度識別およびスーパーエクストラ感度の超高感度受信により、後方からの取締りレーダー波もシッカリ受信します。

ミュート機能

取締りレーダー波の発信源の確認ができたら

警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。



ターン・オン・ビープ

電源スイッチを入れたとき、確認音が鳴り、電源が入ったことをお知らせします。



- トリプル識別受信機能を設定しているときは、『ピロッピロッ』のあとに『ピピピピッ』と鳴ります。(29 ページ参照)

レーダー警報機能について

本機は、Wアラーム方式と接近テンポアップシステムの採用により、取締りレーダー波の存在をより確実に伝えていきます。

Wアラーム方式

音(電子音/オケメロ&ボイス)と光(アラームランプ/シグナルメーター)のダブルで警報します。

接近テンポアップシステム

各警報は、取締りレーダー波発信源への接近(電波の強弱)に合わせて変化します。

取締りレーダー波発信源との距離	
電子音アラーム	断続音から連続音に変化します。
アラームランプ	点滅速度が変化します。
シグナルメーター	左から右へ点灯数が増し、右端へ達したあとに、すべてが点滅します。シグナルメーターの1は黄色、2はオレンジ色、3は赤色に点灯しますが、全体的に光って見えます。

- オケメロ&ボイスアラームはテンポアップしません。
- レーダー波の受信が約30秒以上続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。(オートクワイアット/ディマー機能)



本機はiDSP/統合的デジタル信号処理技術(integrated Digital Signal Processing Technology)により、ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」や、新Hシステムの「種類の異なる電波」に対しては、ただ単に警報するだけでなく、通常波と区別して『ステルスです』または『Hシステムです』と女性のボイスでお知らせします。[ステルス識別][新Hシステム識別：特許 第3326363号]

またカーナビからのGPSのモレ電波など妨害電波は、的確に識別し、誤警報を排除しています。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正しています。[GPS排除：特許 第3044004号・第3160272号]

iDSPを解除することはできません。

iDSPはステルス型の取締り機に対して完全対応というわけではありません。先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。

ボイス識別

ステルス型取締り機について

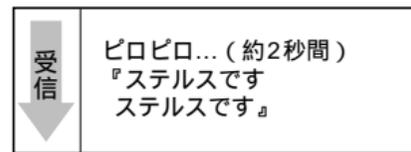
他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して速度の測定ができる狙い撃ち方式の取締り機です。

このため、従来機ではステルス波の識別警報はできませんでした。

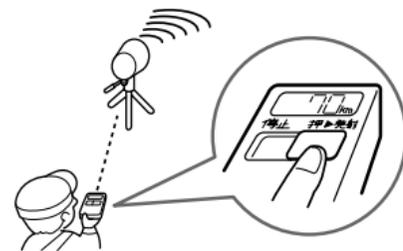
- ステルス型取締り機は、計測する瞬間だけ電波を発射するため、受信できなかつたり、警報が間に合わない場合があります。また、取締りには電波を使用しない光電管式などもありますので、先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。
- 通常の電波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ボイスでお知らせすることがあります。
- オケメロ&ボイスアラームを選んでいても、ステルス型取締り機や新Hシステムの電波を受信するとボイスでお知らせします。

<ステルス波を受信したとき>

専用の女性のボイスでお知らせします。



5秒以上受信が続くと、警報音セレクトボタンで選んでいる通常の警報音に変わって警報します。



ボイス識別

新Hシステムについて

電波を用いる自動速度取締り機(オービス)の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波(周波数は同一)を使用しているため、従来機では探知(受信)しにくくなります。

ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。



<新Hシステム波を受信したとき>

はじめは選んでいる通常の警報音(オケメロ、電子音)が鳴りますが、識別すると女性のボイスでお知らせします。

受信	通常の警報音 (オケメロ&ボイス、電子音)
識別	ピロピロ 『Hシステムです』 ピロピロ 『Hシステムです』…… (受信している間、繰り返し警報します。)

GPS排除について

カーナビゲーションの中には、取締りレーダー波と同一周波数帯の電波を漏洩しているものがあります。従来機では、これが原因で警報が鳴りっぱなしになることがありましたが、この電波を安易に排除すると、肝心の取締りレーダー波に反応しないという、相反する問題がありました。

本機では、取締りレーダー波にはしっかり反応するよう、取締りレーダー波や自動ドアの電波とのわずかな違いを的確に識別することにより、GPSの漏洩電波のみを自動排除し、誤警報を防止しています。(自動識別&排除設定機能)

さらに、自動設定後も、一定の間隔で排除設定の内容および温度変化などによる周波数変動の状態を常にチェックし、変化があれば自動的に補正し、誤警報を排除しています。

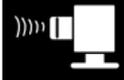
(自動補正機能)

[特許 第3044004号・第3160272号]

カーナビゲーションからの影響を排除している場合、受信している電波の識別判定がしにくく、新Hシステムやステルス波に対しても通常の警報音となる場合があります。

自動ドアなど、常に電波の出ている場所でエンジンを始動すると、GPSを排除できない場合があります。このようなときは電波の出ていない場所に移動して、再度、本機の電源スイッチを入れ直してください。

一部のカーナビゲーションシステムにおいては、異常発振等によりGPS排除されないものがあります。あらかじめご了承ください。



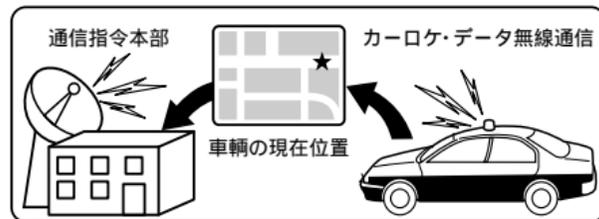
トリプル識別受信機能の使いかた

1 350.1MHz取締無線受信機能について
 スピード違反の取締りや、シートベルト着用義務違反の取締り現場では、350.1MHzの電波を用いたアナログ方式の無線で連絡が行われることがあります。
 350.1MHz取締無線受信機能は、このような取締りに威力を発揮します。

取締り現場での連絡方法には350.1MHzの電波を用いたアナログ方式の無線の他に、通話内容をコード化したデジタル方式や有線方式もあり、受信しても内容が分からなかったり、受信自体が出来ない場合もあります。

カーオーディオやカーナビゲーションなどの影響により、ボイスでお知らせしたり、受信状態になることがあります。あらかじめご了承ください。

2 407.7MHzカーロケ帯受信機能について
 カーロケーターシステムとは、「無線自動車動態表示システム」のことで、通信指令本部が移動局(パトカー等)の現在位置をリアルタイムで地図画面上に表示し、把握するシステムです。
 カーロケーターシステムを搭載した移動局は、GPSによる緯度・経度情報をデジタル化し、407.7MHz帯の周波数でデータ伝送していますので、その電波受信により、移動局が近くにいる可能性が高いことを察知できます。
 このように、事前に察知することにより、緊急車輛の通行の妨げにならないようにするなど、安全走行に役立ちます。

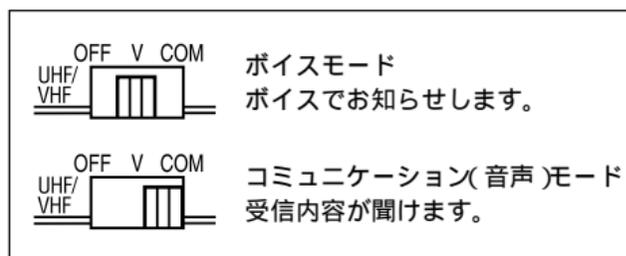
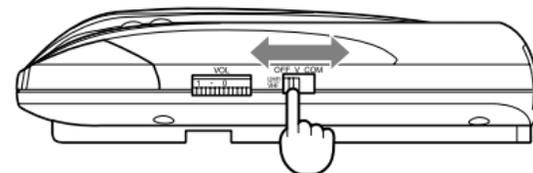


- 移動局によっては、カーロケーターシステムが搭載されていない場合がありますので、移動局が近くにいいても受信できない場合があります。
- 受信のタイミングによっては、実際の移動局の接近と受信のお知らせがズレる場合があります。

3 159・160MHz帯デジタル無線受信機能について
 デジタル無線とは、各都道府県警察本部と移動端末間で交信するためのもので、移動端末から各都道府県警察本部へアップリンクする際に、159・160MHz帯の周波数が使われていますので、その電波受信により、移動局が近くにいる可能性が高いことを察知できます。
 カーロケ帯受信機能と同じように、事前に察知することにより、緊急車輛の通行の妨げにならないようにするなど、安全走行に役立ちます。

トリプル識別受信機能について
 これら、取締無線、カーロケ帯、そしてデジタル無線の3種類の電波を受信した時に、トリプル識別受信機能により、それぞれ、どの電波を受信したのかを、識別してお知らせします。

1 設定する
 UHF/VHFスイッチで動作モードを選びます。



トリプル識別受信機能の使いかた

350.1MHz/407.7MHz帯/159・160MHz帯の電波を受信すると

<ボイスモードのとき>

UHF/VHFランプが緑色に点滅し、ボイスでお知らせします。

①350.1MHzの電波を受信すると…

②407.7MHz帯の電波を受信すると…

ピピピピッ
ピピピピッ
受信しました
ご注意ください

ピッピピッ
カーロケ無線を
キャッチしました
ご注意ください



③159・160MHz帯の電波を受信すると…

ピッピピッ
デジタル無線を
キャッチしました
ご注意ください

- ・350.1MHz/407.7MHz帯/159・160MHz帯の電波を一瞬でも受信すると、ボイスが1フレーズ鳴ります。また、警報中に再度電波を受信すると、もう一度、1フレーズの警報をします。
- ・ボイスはミュート機能で消すことができます。受信が続いたときは、警報後、自動的にミュート機能が働きます。
- ・ボイスが鳴ったあと、30秒以内にもう一度350.1MHz/407.7MHz帯/159・160MHz帯の電波を受信してもボイスは鳴りません。
- ・ボイスが鳴っているときに取締りレーダー波を受信すると、取締りレーダー波の警報音が優先されます。

<コミュニケーション(音声)モードのとき>

UHF/VHFランプが緑色に点滅し、受信内容を聞くことができます。

①350.1MHzの電波を受信すると…

②407.7MHz帯の電波を受信すると…



(取締無線連絡)



(カーロケ・データ伝送音)



③159・160MHz帯の電波を受信すると…



(デジタル無線交信音)

- ・30秒以内にもう一度350.1MHz/407.7MHz帯/159・160MHz帯の電波を受信しても電子音やボイスは鳴りません。受信した音声のみ聞こえます。
- ・350.1MHz取締無線がデジタル方式の場合や、407.7MHz帯/159・160MHz帯の受信音は、デジタル信号音ですので、受信しても内容は分かりません。
- ・350.1MHz/407.7MHz帯/159・160MHz帯の電波を受信しているときに取締りレーダー波を受信すると、両方の音が重なって聞こえます。
- ・350.1MHz取締無線の交信は数秒間で終わることが多いため、交信内容を完全に聞き取ることができない場合もあります。



GPS測位機能について

GPS (Global Positioning System) とは、衛星軌道上の24個の人工衛星から発信される電波により、緯度・経度を測定するシステムです。

カーナビでお馴染みのこのシステムを利用して、従来のレーダー探知機では警報できなかった、ループコイル式や光電管式のオービス、そしてLHシステムも、約1km手前からオービスの種類を識別して、音声で警告します。[GPSボイス警告：特許出願中]

また、あらかじめメモリーされているオービスポイントに近づいたときに警告するだけでなく、移動オービスがよく出没する位置や、新たに設置されたオービスポイントなど、最大30カ所登録でき、そこに近づくと音声で警告します。[マイ・エリア警告]

さらに、自動ドアなど、取締り機が設置されていないにもかかわらず、警報が鳴るエリアを最大30カ所登録でき、そのエリアでの不要な警報を制御します。[MSC/ミニマムセンス制御：特許出願中]

そして、GPS測位機能を利用して走行速度を検出することにより、停車中または低速走行中の不要な警報をカットしたり[AAC/不要警報カット：特許 第2064681号]、取締りレーダー波の最適な受信感度を自動的に選択します。[ASS/最適感度選択：特許 第3051676号]

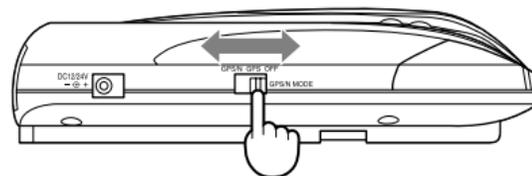


GPS測位機能の使いかた

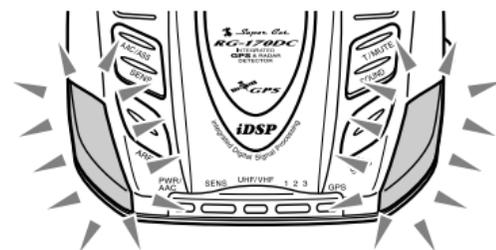
つづく

1 GPSモードを選ぶ

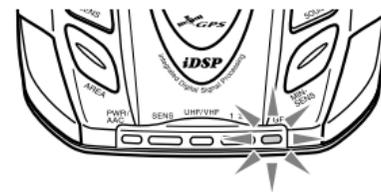
GPS/Nモードスイッチで切り換えます。



GPSまたはGPS/Nに切り換えると、GPSの電波をサーチをはじめ、アラームランプが青色に点滅します。



サーチが終わり、GPS測位機能が働くと、アラームランプは消灯し、GPS測位ランプがオレンジ色に点灯します。初めての測位のときは、『ポーン 測位しました』とお知らせします。



サーチ後、約5分経過しても測位できないときは、『ポーン GPSをサーチ中です』とお知らせします。

一度測位すると、そのGPSメモリーが内蔵バッテリーによりバックアップされ、その後の測位は早くなります。ただし、この内蔵バッテリーには寿命があります。使用状況にもよりますが、約3～5年を目安に、測位に時間がかかるようになったら、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

使いかた/ GPS 編

使いかた/ GPS 編



NシステムGPS告知

「自動車ナンバー自動読み取り装置」通称『Nシステム』は新Hシステムなどに似ていますが、レーダー波を使用した取締り機でないため、従来のレーダー探知機では通過しても何も反応しませんでした。そのため、「新型の取締り機ではないか?」といった疑問や不安を持ちながら運転していた人も多かったようです。本機では、あらかじめNシステムの設置ポイントを内蔵メモリーに登録しておき、GPS測位機能を利用し、それらのポイントに近づくと、最大約300m手前からボイスでお知らせします。

[NシステムGPS告知]

NシステムGPS告知を使うときは...

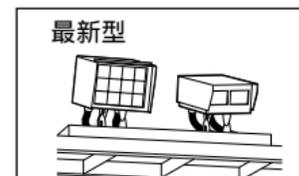
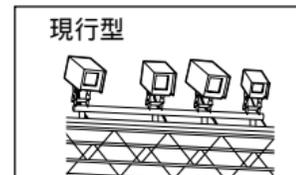
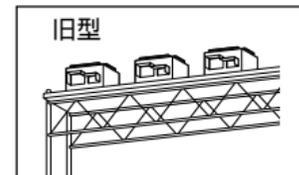
GPS/NモードスイッチをGPS/Nの位置にしてください。

お買い上げ時には、GPS/NモードスイッチはGPS/Nになっています。



内蔵メモリーに登録されているNシステムのポイントに近づくと...

『ポーン 右(または、左)すぐ先に高速道(または、一般道)Nシステムがあります』とボイスでお知らせします。



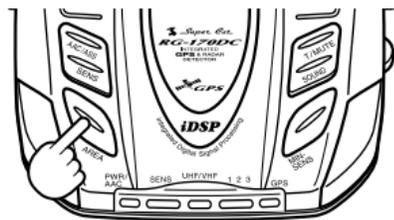
- GPS測位および地理的な状況によっては、NシステムGPS告知が直前になる場合があります。
- 新設のNシステムなどで、NシステムGPS告知されない場合は、マイ・エリア警告をご利用ください。
- NシステムGPS告知した場合でも、実際には稼働していないNシステムもあります。



マイ・エリア警告の使いかた

1 マイ・エリア登録をする

移動オービスがよく出没する位置や、新たに設置されたオービスポイントなど、自分で登録したい地点でマイ・エリアボタンを押します。



2 マイ・エリア登録を確認する

『ポーン このエリアをセットしました』とボイスでお知らせします。

すでにマイ・エリア登録されていたエリアのとき...

『ポーン このエリアはセットされています』とボイスでお知らせします。

いったん登録したマイ・エリアを解除(消去)するとき...

マイ・エリア登録されているエリアで、マイ・エリアボタンを約1秒間押しすと、『ポーン このエリアを解除しました』とボイスでお知らせし、消去します。

登録したマイ・エリアをすべて解除(消去)するとき...

マイ・エリアボタンを約30秒間押ししたままにすると、『ポーン ポーン 解除しました』とボイスでお知らせし、すべて消去します。

・いったん消去すると、元に戻せませんのでご注意ください。

GPS電波を受信できず、マイ・エリア登録できなかったとき...

『ポーン GPSを受信できません』とボイスでお知らせします。

マイ・エリア登録が30カ所を超えたとき...

マイ・エリア警告された頻度の最も少ないエリアを消去し、新しいエリアを登録します。

GPS測位の状況によっては、先に『ポーン GPSをサーチ中です』とお知らせする場合があります。

自分でマイ・エリア登録したポイントに近づくと...

『ポーン 右(左)方向1km(500m)先にセットしたエリアがあります』と約1km~500m手前と約500m~直前の2回、ボイスで警告します。[マイ・エリア警告] 警告エリアが約1km以内のときは、「1km先に」「この先に」とお知らせし、約500m以内のときは、距離に応じて「500m先に」「300m/200m/100m/すぐ先に」のいずれかでお知らせします。

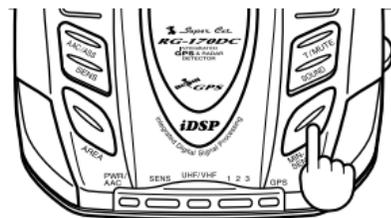
さらに、マイ・エリア登録したポイントの直前で、『ポーン』と音でお知らせします。[オービス・ポイント直前告知]



ミニマムセンス・モードの使いかた

1 ミニマムセンス登録をする

自動ドアなど、取締り機が設置されていないにもかかわらずレーダー警報がよく鳴るエリアで、レーダー警報を抑えたい地点でミニマムセンスボタンを押します。



2 ミニマムセンス登録を確認する

『ポーン このエリアをミニマムセンスにセットしました』とボイスでお知らせします。

すでにミニマムセンス登録されていたエリアのとき...

『ポーン このエリアはミニマムセンスにセットされています』とボイスでお知らせします。

いったん登録したミニマムセンス・エリアを解除(消去)するとき...

ミニマムセンス登録されているエリアで、ミニマムセンスボタンを約1秒間押しすと、『ポーン このエリアを解除しました』とボイスでお知らせし、消去します。

登録したミニマムセンス・エリアをすべて解除(消去)するとき...

ミニマムセンスボタンを約30秒間押ししたままにすると、『ポーン ポーン ミニマムセンスを解除しました』とボイスでお知らせし、すべて消去します。

・いったん消去すると、元に戻せませんのでご注意ください。

GPS電波を受信できず、ミニマムセンス登録できなかったとき...

『ポーン GPSを受信できません』とボイスでお知らせします。

ミニマムセンス登録が30カ所を超えたとき...

ミニマムセンス登録されているエリアへの侵入頻度の最も少ないエリアを消去し、新しいエリアを登録します。

GPS測位の状況によっては、先に『ポーン GPSをサーチ中です』とお知らせする場合があります。

ミニマムセンス登録したエリアに侵入すると...

ミニマムセンス登録したポイントから半径約300mのエリアに侵入すると、レーダー波の警報レベルをミニマム(最低)にし、不要なレーダー警報を抑えます。

[特許出願中]

 GPSボイス警告、トンネル出口警告、マイ・エリア警告はミニマムセンス・エリア内でも警告されます。

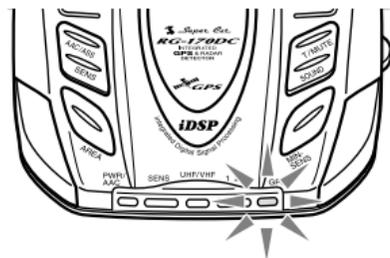


GPS測位機能を利用して走行速度を検出することにより、停車中または低速走行中の不要な警報をカットしたり[AAC/不要警報カット：特許 第2064681号] 取締りレーダー波の最適な受信感度を自動的に選択します。[ASS/最適感度選択：特許 第3051676号]

AACシステムがOFF(解除)の状態では、レーダー波を受信すると常に警報音が鳴ります。お買い上げ時には、AACシステムはOFF(解除)になっています。

1 GPS測位を確認する

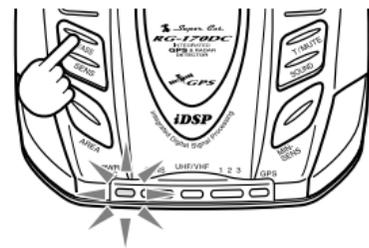
GPS測位ランプが点灯していることを確認します。(33ページ参照)



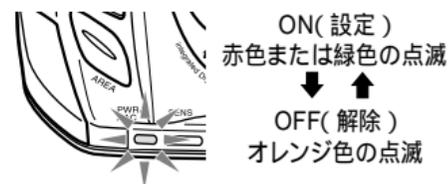
GPS/NモードスイッチがOFFまたはGPS測位していない状態で、AACシステムがOFF(解除)のときは、レーダー波を受信すると常に警報が鳴ります。

2 AAC/ASSボタンを押してONにする

パイロットランプが赤色または緑色の点滅の時は、ON(設定)の状態です。パイロットランプがオレンジ色の点滅のときは、OFF(解除)の状態ですので、AAC/ASSボタンを押してONにします。



AAC/ASSボタンを押すたびに、AACシステムのON/OFFが切り換わります。



AAC/不要警報カット

走行速度が時速40km以下の場合...

パイロットランプが赤色に点滅し、取締りレーダー波を受信しても、警報をカットします。停車中や低速走行中に、自動ドアなどの電波を受信しても、誤警報することはありません。

ASS/最適感度選択

走行速度が時速40km以上の場合...

パイロットランプが緑色に点滅し、走行速度に合わせて、最適な受信感度を自動的に選択します。

走行速度	受信感度
40km ~	スーパー感度
60km ~	エクストラ感度
80km ~	スーパーエクストラ感度

GPS/NモードスイッチがOFFまたはGPS測位していない状態が続くと、走行時間の経過に応じて、受信感度が自動的に変化します。

パイロットランプの点滅色と警報動作

AACシステムをON(設定)にすると、低速走行/停車中の不要な警報を抑え、さらにASS機能が働いて走行速度に応じた受信感度が自動的に変化します。[特許 第3051676号]

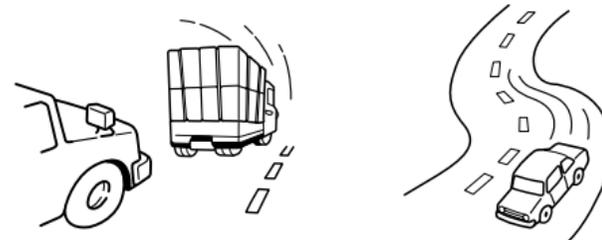
		時速40km		時速60km	時速80km	}}	時速40km		
車の状態									
		停車	走行中		走行中			走行中	停車
ON(設定時) AACシステム	パイロットランプ	赤色点滅			緑色点滅			青色点滅	赤色点滅
	感度ランプ	赤色点滅	スーパーエクストラ感度選択時	オレンジ色点滅	緑色点滅	青色点滅	}}	青色点滅	赤色点滅
	警報状態 受信感度	警報しない カットダウンモード			警報する	スーパー感度	エクストラ感度	スーパーエクストラ感度	警報しない カットダウンモード
OFF(解除時) AACシステム	パイロットランプ	オレンジ色点滅							
	感度ランプ	マニュアルモードで設定した受信感度のランプ色点滅。 カットダウンモード(赤色)/エクストラ感度(緑色)/スーパーエクストラ感度(青色)							
	警報状態 受信感度	警報する マニュアルモードで設定した受信感度							

取締りレーダー波を受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、電波を受信しにくいことがあります。

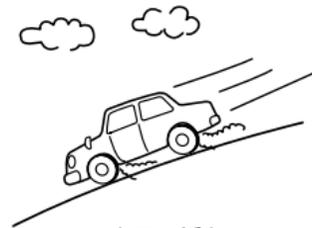
前に走行している車(とくに大型車)がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなることがあります。スピードの出やすい下り坂では、とくにご注意ください。

対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りができるステルス型のスピード測定装置があります。



〔前に走行中の車がある場合〕

〔コーナー〕



〔下り坂〕

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。『いつも鳴るから』と安心せずに注意してください。

その他

取締りのミニ知識

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

スピード違反の取締り方法

大きく分けて3つの方法があります。

1 追走して測定する方法 (追尾方式)

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

本機は取締りレーダー波を発射しているものについては後方受信します。また、カーロケータシステム搭載車の場合は、カーロケ帯受信機能により、警報をすることができます。

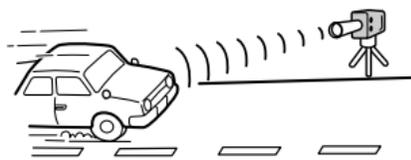
2 距離と時間で算出する方法 (光電管式、ループコイル式)

一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

この方式は取締りレーダー波を発射しておりませんので、従来のレーダー受信機能では、検知できませんが、GPS測位機能により、警報することができます。

3 電波を使って算出する方法 (レーダー方式)

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化(ドップラー効果)で速度を算出します。



現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流になると思われます。

取締りレーダー波について

取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

定置式

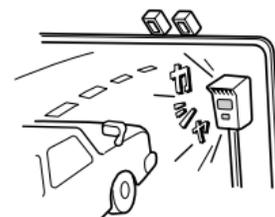
人が測定装置を道路際に設置して行います。

取締りレーダー波は、直進性が強いいため、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。



自動速度取締り機(オービスⅢ)

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



移動式

測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、日本国内でも使用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているXバンドに加え、Kバンドも受信できるX・Kツインバンド対応です。

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう一度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部にご相談ください。

症状	チェック項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチがONになっていますか。 シガープラグコードが外れていませんか。 シガーライターソケットの内部が汚れて、接触不良を起こしていませんか。シガープラグを2、3回左右にひねりながら差し込み直してください。 シガープラグ内部のヒューズが切れていないか確認してください。切れている場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。
エンジンを止めて、イグニッションキーを抜いても電源が切れない	<ul style="list-style-type: none"> シガーライターソケットの電源が、エンジンの始動/停止と連動して入/切しない車があります。このような車では、エンジンを止めても、シガーライターソケットに電源が供給されますので、シガープラグの電源スイッチで電源を切ってください。
反応しない レーダー警報しない	<ul style="list-style-type: none"> 電源が入っていましたか。パイロットランプの点滅を確認してください。 警報機能が正しく働きますか。テスト&ミュートボタンを押して確認してください。 取締りレーダー波が発射されていませんか。計測する瞬間だけ電波を発射するステルス型など、取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(とくにオービスIIIではよくあります) 取締りが「レーダー方式」で行われていませんか。 ミニマムセンス登録したエリアではありませんでしたか。
GPS警告しない	<ul style="list-style-type: none"> GPS測位していましたか。 レーダー警報していませんでしたか。(レーダー警報がGPS警報より優先されます) 新たに設置されたオービスではありませんか。

症状	チェック項目
取締りもしていないのにレーダー警報する	<ul style="list-style-type: none"> 取締りレーダー波と同じ電波が他にも使用されています。それらの電波を受信すると警報機能が働くことがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。 取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器 電波式の自動ドア、防犯センサー 信号機の近くに設置されている車輛通過計測機 NTTのマイクロウェーブ通信回線の一部 気象用レーダー、航空レーダーの一部 他のレーダー探知機の一部 まれに他の無線機の影響を受けることがあります。その場合は取り付け位置を変えてみてください。
警報の途中で警報音が小さくなりランプ類も暗くなる	<ul style="list-style-type: none"> レーダー波の受信が約30秒以上続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。
カーナビゲーションの影響を排除できない	<ul style="list-style-type: none"> 自動ドアなどの常に電波の出ている場所でエンジンを始動した場合、GPSを排除できないことがあります。このようなときは、電波の出ている場所へ移動して、もう一度本機の電源スイッチを入れ直してください。
NシステムGPS告知しない	<ul style="list-style-type: none"> GPS/Nモードスイッチは「GPS/N」の位置に切り換えていましたか。 GPS測位していましたか。 新設のNシステムなどで、未登録の場合は、告知されません。 レーダー警報していませんでしたか。(レーダー警報がGPS告知より優先されます)
取締り現場なのに350.1MHzを受信しない	<ul style="list-style-type: none"> UHF/VHFスイッチを「V」または「COM」に設定していましたか。 取締り現場での連絡が無線方式で行われていましたか。連絡には350.1MHzの電波を使った無線方式の他に、有線方式の場合もあります。

仕様

電源電圧	: DC 12V/24V (シガープラグ入力電圧)	動作温度範囲	: -20 ~ +85 (GPS部: -20 ~ +80) (UHF部: -10 ~ +60)
消費電流	: 待機時: 25mA以下 (GPS/UHF/VHF部 OFF時) 最大: 250mA以下	本体外形寸法	: 78(W)×24(H)×110(D)mm (突起部を除く)
受信方式	: [GPS部] 16チャンネル/パラレル受信方式 [レーダー部] スイープオシレーター式ダブル スーパーヘテロダイン方式	本体重量	: 165g GPSメモリーバックアップ用の電池は内蔵されています。
受信周波数	: [GPS部] 1575.42MHz帯 [レーダー部] Xバンド/Kバンド [UHF部] 350.1MHz/407.7MHz帯 [VHF部] 159・160MHz帯	本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。	

その他

アフターサービスについて

つづく

- 1. 保証書(裏表紙参照)**
保証書は、必ず「販売店・お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。
- 2. 保証期間**
お買い上げの日から1年間です。
- 3. 対象部分**
機器本体(消耗部品を除く)
- 4. 修理をご依頼される時**
「故障かな?と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名(車種)、機種名(品番)、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。
保証期間中のとき
保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで、保証書とともに、機器本体とシガープラグコードをご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。
- 5. アフターサービス等についてご不明の点は**
お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。
- 6. オービス&Nデータの更新**
本機にあらかじめ登録されているオービスおよびNシステムのポイントのデータは、2003年1月現在のものであります。新設のオービスやNシステム等を盛り込んだ最新データへの更新をご要望される場合、有料(送料・税別¥5,000)にて、データ更新させていただきます。お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。

その他

